



2027年度 コースガイドンス

九州情報大学

2026年5月作成



▷ 「コース制」とは

この冊子は、経営情報学科・情報ネットワーク学科にそれぞれ設置しているコース概要（履修科目の特徴、養成する人材、目標資格、履修モデル）についてまとめています。

コース制を設置している目的は、『自分の将来の目標を明確にして、履修科目を主体的に選ぶことができる指針を定めること』にあります。本学では2年次から、両学科あわせて「5つ」のコースを設置しています。

2年次からコース選択することで、自分の目標に近づくことができる「イメージ」が湧くのではないかと期待しています。

この冊子を活用して今後の履修計画を立て、将来を見据えた勉学に励んで下さい。そして大学生活を実りあるものにして下さい。

学部長
教務部長



目 次

◆コース制とは	1
---------	---

◆経営情報学科

経営情報学科のコース概要	3
--------------	---

経営・DXコース	4
----------	---

国際ビジネスコミュニケーションコース	6
--------------------	---

eスポーツ・デジタルエンターテインメントコース	8
-------------------------	---

◆情報ネットワーク学科

情報ネットワーク学科のコース概要	10
------------------	----

ITエンジニアコース	12
------------	----

データサイエンスコース	14
-------------	----

★経営情報学科のコース概要

「経営情報学科は『経営と情報』をキーワードに、多角的な視点から『経営学の真髄』を学びます」

ICT (Information and Communication Technology) とデジタル (Digital) 技術の進歩とともに経営学は大きな転換期を迎え、歴史的にも最も変化の激しい時代となっています。その時代の流れにそぐわない古い体質の企業は取り残され、新しい変化を柔軟に受け止めた企業は急成長をとげています。ICT とデジタル技術を取入れた経営は、現代の企業経営には必要不可欠であり、そのような素養を持った人材もまた同様に必要不可欠です。

経営情報学科では、先人たちの英知の結集として確立された経営学と先進的な ICT とデジタル技術の融合である最先端の「経営情報学」を学びながら、実践的な行動力を身に付けることができます。

これからの高度情報化社会の中では、経営情報学の重要性はますます高まります。同時に経営情報学を学ぶ人々の目標もさまざまに異なるでしょう。ICT とデジタル技術を活用しつつ、財務や会計のエキスパートをめざす人、起業家をめざす人、商品の企画、開発やマーケティング戦略を学びたい人、グローバルなビジネス環境などで活躍したい人などさまざまな目標を持つ人がいるでしょう。経営情報学はこうしたさまざまな目標の達成にこたえることのできる広範囲な内容をもった学問なのです。

★コース別の目指す職業例や学びの特徴など

コース	経営・DX	国際ビジネス コミュニケーション	eスポーツ・デジタル エンターテインメント
	●銀行員 ●公務員 ●事務員 ●財務・経理 ●税理士 ●公認会計士 ●中小企業診断士 ●データアナリスト ●高等学校教諭（情報）など	●通訳 ●貿易事務 ●海外営業 ●海外事業開発 ●ツアーコンダクター など	●デジタルマーケター ●データアナリスト ●イベントプランナー ●動画クリエイター ●ゲームディレクター ●ゲームデザイナー ●配信プロデューサー ●広告プランナー など
目指す職業例			
学びの特徴	企業の健全な運営を支える「会計・ガバナンス」の知識と、市場を切り拓く「デジタル・イノベーション」に必要な 簿記会計・経営・マーケティング・デジタル技術 (ICT) などの知識を総合的に学びます	「語学スキル」を身につけ、 国際的な政治・経済情勢を俯瞰 できる教養・知識を総合的に修得します	「eスポーツ産業」を含む「エンタメ業界」を総合的に学び、 DX社会に即戦力として対応 できる教養・知識・実践力を総合的に学びます



…経営・DX コース…

《コーディネーター》鈴木和也（コース主任）、岩下昌美、鶴崎清貴、遠藤真紀、竹石洋介

「データで未来を読み解き、変革をリードする。」

ビジネスを刷新し、新たな価値を創造できる「ビジネス・トランスフォーマー」を目指しませんか。

▷ コースの概要

経営・DX コースは、企業の健全な運営を支える「会計・ガバナンス」の知識と、市場を切り拓く「デジタル・イノベーション」のスキルを融合させた、次世代のビジネスリーダーを養成するコースです。本コースでは、不確実な社会において企業の「攻め（新規事業・マーケティング）」と「守り（財務・組織管理）」の両面を、デジタル技術（ICT）とデータを武器にアップデートする手法を学びます。従来の文系的な経営知識に加え、IT パスポートや DX ビジネス検定などの資格取得も視野に入れ、就職活動で強力な武器となる「実務×デジタル」の専門性を磨きます。

▷ 養成する人材像

デジタル技術と経営・会計の知識を兼ね備え、企業内の DX 推進室や経営企画、あるいはデジタルマーケティングの専門家として、組織の変革をリードできる「DX ビジネススペシャリスト」を養成します。

▷ 履修モデル科目の特徴

① 変革を主導する経営・起業家精神の育成

1 年次に「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」「ベンチャービジネス入門」「経営戦略論」を履修することで、組織の全体像と、新しい価値を生み出すための「ベンチャースピリット（挑戦心）」を養います。これは、DX を推進する上で不可欠な「課題設定力」と「変革推進力」の土台となります。

② データドリブン経営を支える会計・財務リテラシー

企業の健康状態を数値で把握する力は、DX の投資判断に必須です。1 年次の「会計学」「簿記Ⅰ・Ⅱ」から始まり、2 年次以降の「財務会計論」「中級簿記」「経営分析」を通じて、データを経営判断に活かす「データドリブン」な思考を修得します。

③ デジタル技術とマーケティングの融合

ネット社会に対応した「マーケティング論」や「消費者行動論」に加え、「SNS 活用と問題解決」「デジタルビジネス論」を受講します。最新の IT トレンドがいかにかに市場を変えるかを理解し、SNS や Web を活用した実践的なマーケティング手法を学びます。

④ 実践的な DX 実装と課題解決演習

2 年次の「経営情報学Ⅰ」で基礎を固めた後、2・3 年次には「経営情報学Ⅱ」「マネージメントゲーム」、そして 3・4 年次には「ビジネスプランニング」に挑戦します。自らビジネスモデルを創造し、事業計画書を作成する一連のプロセスを通じて、学んだ知識を統合し、実社会の課題をデジタルで解決する実戦力を身に付けます。

▷ 資格について

IT パスポート、DX ビジネス検定、G 検定（ジェネラリスト検定）、日商簿記検定（2 級・3 級）、販売士、中小企業診断士、高等学校教諭 1 種免許状（情報）等。

▷ 履修モデル表

太字の科目はコース重点科目、それ以外はコース推薦科目

	前 期	単位数	後 期	単位数
1 年 次	経営学総論Ⅰ＊	2	経営学総論Ⅱ	2
	マーケティング論＊	2	経営戦略論	2
	ベンチャービジネス入門	2	簿記Ⅱ	2
	会計学＊	2	日本国憲法	2
	簿記Ⅰ＊	2		
	法学	2		
	10+2=12 単位		6+2=8 単位	
2 年 次	経営情報学Ⅰ＊	2	経営情報学Ⅱ	2
	中小企業論	2	デジタルビジネス論	2
	財務会計論	2	コンピュータ会計	2
	中級簿記	2	経営組織論	2
	経営分析	2	マネージメントゲーム	2
	SNS と問題解決	2	消費者行動論	2
	マネージメント科学	2		
	原価計算論	2		
	会社法	2		
	企業金融	2		
	経営史	2		
	12+10=22 単位		10+2=12 単位	
3 ・ 4 年 次	労務管理論	2	ビジネスプランニング	2
	税務会計論	2	税法学	2
	4+0=4 単位		2+2=4 単位	

※ ＊ は必修科目

※ 重点科目（44 単位）＋推薦科目（18 単位）＝合計（62 単位）



…国際ビジネスコミュニケーションコース…

《コーディネーター》 藤内響子（コース主任）、齊藤綾子、全彰煥、クリス・フリン
古川幸子

このコースは、企業が求める即戦力になる人材を養成するためのコースです。グローバル化・情報化が進む現代において、企業は、ビジネスの現場で通用する語学力を持ち、コンピュータや情報に関する実用的な知識・技術を備えた人材を求めています。

▷ コースの概要

経済のボーダーレス化がますます進展する中で、これからの企業人には、国際政治や経済・文化にかかわる情報を分析できる力や将来を予測できる柔軟で理論的な思考が強く必要とされており、さらに英語を中心とした外国語が現実の企業活動の場で不可欠なものになっています。本コースは国際社会への貢献を目標として掲げ、専門性と国際性を重視した学びを行います。国際レベルの課題への理解を深め、世界の多様な人々と協働し、新たな価値を創造するための実践力を育みます。

▷ 養成する人材像

ビジネスとはコミュニケーションに他ならず、誰もコミュニケーション無しに経済活動を行うことはできません。現在のように混迷を深める世界情勢においては、異なる背景を持つ他者との協働によって互いの理解を深め、物事を多角的な視点から考えられる深い洞察と理解を伴ったコミュニケーション能力こそが、最も必要とされているのではないのでしょうか。このコースではビジネスの現場で通用する語学力を持ち、コンピュータや情報に関する実用的な知識・技術を備えた、ビジネスコミュニケーターの育成を目指します。

▷ 履修モデル科目の特徴

このコースの履修モデルの特徴は、国際的で実践にも役立つ視野を養成できるように、英語を始めとする外国語はもちろん、国際経営・物流など幅広い分野の科目の履修を薦めている点にあります。

▷ 資格について

特に英検、TOEIC、韓国語検定、中国語検定の受験を強く推奨し、支援します。また TOEFL、秘書検定、国際秘書検定、経営士、販売士、簿記、中小企業診断士、IT パスポートなどの各種試験の受験を推奨し、支援します。

▷ 履修モデル表

太字の科目はコース重点科目、それ以外はコース推薦科目

	前 期	単位数	後 期	単位数
1 年 次	総合英語*	2	英検中級・TOEIC 基礎	2
	英会話 Basic I	2	英会話 Basic II	2
	4+0=4 単位		4+0=4 単位	
2 年 次	英会話 Advanced I	2	英会話 Advanced II	2
	初級中国語	2	国際経営論	2
	初級韓国語	2	英検上級 II・TOEIC 応用 II	2
	英検上級 I・TOEIC 応用 I	2	中級中国語	2
			中級韓国語	2
	8+0=8 単位		6+4=10 単位	
3 ・ 4 年 次	ビジネス英語	2		
	国際物流論	2		
	4+0=4 単位		0+0=0 単位	

※ * は必修科目

※ 重点科目（26 単位）＋推薦科目（4 単位）＝合計（30 単位）

※ 初級中国語・中級中国語および初級韓国語・中級韓国語 については、それぞれを母国語としている者は履修できません。



… e スポーツ・デジタルエンターテインメントコース …

《コーディネーター》秋吉浩志（コース主任）、澤井雅明、中島直樹、野中溪人、宮崎武

▷ コースの概要

近年、ゲーム、動画配信、SNS、XR（VR・AR）など、デジタル技術を活用したエンターテインメントは急速に広がり、世界中で大きな産業へと成長しています。とくに e スポーツは、競技としてのゲームだけでなく、イベント、配信、メディア、広告、コミュニティ形成など多くの分野と結びつき、新しいデジタル文化として注目されています。こうしたデジタルエンターテインメントの世界では、コンテンツを制作する力だけでなく、ビジネスとして企画・運営する力、さらにデータや AI などのデジタル技術を活用する力が求められています。

本コースでは、e スポーツやゲーム、動画配信などを題材にしながら、現代のデジタルエンターテインメント産業を支える知識と実践力を身につけます。教育の柱は「コンテンツ」「ビジネス」「テクノロジー」の3つです。コンテンツ分野では、ゲームや映像、配信などの企画や制作について学び、エンターテインメントを生み出す仕組みを理解します。ビジネス分野では、マーケティングやイベント運営、マネジメント（経営）などを学び、デジタルエンターテインメントを社会に広げる方法を考えます。さらにテクノロジー分野では、AI やデータサイエンス、デジタル分析などを基礎から学び、データを活用した新しいエンターテインメントの可能性を探ります。

▷ 養成する人材像

e スポーツやデジタルエンターテインメントは、これからの社会において文化やビジネスの新しい可能性を広げる分野です。本コースでは、楽しさや創造性を大切にしながら、デジタル社会で活躍するための知識とスキルを身につけ、新しいエンターテインメントを生み出す人材の育成を目指します。

▷ 履修モデル科目の特徴

新入生のみなさんには、1年次に「経営戦略論」「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」を用意しています。この科目では、経営とは何か、企業はどのようにして経営されていくのかなど経営の全体像を把握することができます。さらに、中核的な科目としてはマーケティングや消費者行動を総合的に学ぶ「マーケティング論」「消費者行動論」を用意しています。ここで、e スポーツ・デジタルエンターテインメントコースで履修すべき科目の概略も紹介しています。

1年次で基礎的な学習を終えた後、2年次、3年次と進むにつれ、経営に不可欠な専門的知識、またデジタル社会に対応したマネジメント関連の応用科目も履修できます。

特に、2年次科目の「デジタルビジネス論」では、デジタルビジネス業界で活躍している企業家などの講師を招聘して、主に実践的な学習を行います。また、「e スポーツ概論」でも e スポーツに関わる多くの実務家講師が来られ e スポーツを通じたデジタルエンターテインメントの世界を肌で感じ取ることができるでしょう。

また、これから重要になってくる IP（知的財産）を主に学ぶ「知的財産権」、ゲーム関係のプログラミングについて学ぶ「ゲームプログラミング」などがあります。またそれと併せ、SNS にも対応する最新の情報技術についても学年進行に沿って深く学んでいきます。

▷ 資格について

IT パスポート、基本情報技術者試験、DX パスポート、IT コーディネーター試験（上級）、ネットマーケティング検定等

▷ 履修モデル表

太字の科目はコース重点科目、それ以外はコース推薦科目

	前 期	単位数	後 期	単位数
1 年次	マーケティング論＊	2	経営戦略論	2
	経営学総論Ⅰ＊	2	消費者行動論	2
	簿記Ⅰ＊	2	経営学総論Ⅱ	2
	会計学＊	2		
	4+4=8 単位		6+0=6 単位	
2 年次	コマース論	2	経営組織論	2
	財務会計論	2	デジタルビジネス論	2
	ゲームプログラミング	2	e スポーツ概論	2
	経営情報学Ⅰ＊	2	経営情報学Ⅱ	2
	マネージメント科学	2		
	SNS 活用と問題解決	2		
	6+6=12 単位		6+2=8 単位	
3・4 年次	情報セキュリティ＊	2		
	DX（デジタルトランスフォー			
	メーション）概論	2		
	マルチメディア論	2		
	知的財産権	2		
	6+2=8 単位			

※ ＊ は必修科目

※ 重点科目（28 単位）＋推薦科目（14 単位）＝合計（42 単位）



★情報ネットワーク学科のコース概要

情報ネットワーク学科には、「IT エンジニア」と「データサイエンス」の2つのコースがあります。

「IT エンジニア」コースでは、私たちの生活を豊かにする IT システムの仕組みを理解し、システムの企画、開発、運用などに携わる IT エンジニアを養成します。最近では、Web を利用した様々なシステムが構築され、私たちはスマートフォンを利用して、ショッピング、座席の予約、SNS などのコミュニケーションツールとして IT システムを活用しています。

「データサイエンス」コースでは、Big Data と言われる膨大なデータを解析し、必要な情報や思いがけない情報を導き出して、人や企業の活動に活かせる知識や技術を学びます。

詳しくは、図表やコース解説を参照してください。

★コース別の目指す職業や学びの特徴など

コース	IT エンジニア	データサイエンス
目指す職業例	●システムエンジニア ●Web エンジニア ●インフラエンジニア ●Web プログラマー ●ゲームプログラマー ●Web デザイナー ●アプリケーションプログラマー など	●データサイエンティスト ●プログラマー ●IT コンサルタント ●システムアナリスト ●システムコンサルタント ●マーケットリサーチャー ●研究者 など
学びの特徴	「IT システム」で運用するサービス Web サービス IT システムの構築 について学びます	「データ分析の論理的な思考能力」 「統計解析スキル」「AI スキル」などの 幅広いIT 知識・技能 を修得します
コースの概要	基本的な IT システムの構成や仕組みについて学びます。具体的には Web コンテンツの制作やネットワーク運用技術を学びます。さらに、このような IT システムの開発、運用、管理について実践を通して学びます。	数学知識・データ分析処理技術などの統計解析スキル、IT 知識全般からデータベースの知識・プログラミングまでの IT スキル、ビジネスに対する理解・論理的思考能力・文書作成能力・プレゼンテーション能力などのビジネススキルを学習します。
キーワード	Web コンテンツの制作 IT システムの開発 ネットワークの運用	データ分析の手法 データの経営的な活用
関連する 主な資格・検定	IT パスポート試験、基本情報技術者試験、 CCNA・CCNP	統計検定、IT パスポート試験、生成 AI パスポート、 データサイエンティスト検定、G 検定

情報ネットワーク学科で学ぶ主な内容

私たちの生活に不可欠なインターネットを中心に様々な技術, 知識, 情報を学びます

技術・知識・情報



分類	分野	内容
技術	セキュリティ	ネットワークを安全に利用するための技術
	ネットワーク技術	ネットワークを安定的に利用するための技術
	情報システム	私たちの生活を便利にする IT 技術
	Web プログラミング	私たちとデータベースをつなぐ技術
	データベース	大量のデータを効率よく管理する技術
	データ分析	データを分析して新たな情報を作り出す技術
	プログラミング	大量のデータをプログラムで処理する技術
	機械学習	人間の判断を自動化する技術
	人工知能	人間の知能を機械へ与える技術
知識	数学	大量のデータから情報を取り出す知識
	統計学	人間が判断するための情報を作り出す知識
	経済学	情報が社会に与える影響を考える知識
	経営学	ビジネスの仕組みに関する知識
	会計学	会社の経営状態を把握する知識
情報	インターネット	あらゆる情報の宝庫
	Big Data	膨大な量の情報
	ビジネス	私たちの生活を豊かにするビジネス
	SNS	世界中の人々とのコミュニケーション



∴IT エンジニアコース∴

《コーディネーター》合田和正（コース主任）、桑原重雄、車炳記

▷ コースの概要

近年の携帯電子機器の普及や発展は凄まじいものがあり、高性能な電子機器が身近なものとなりました。これらの電子機器を使って、インターネットの先にある IT システム（ショッピングサイト、SNS など）にアクセスするのは、特別なことではなくなっています。しかしながら、ますます複雑化するシステムをブラックボックスとして中身をよく知らないまま使うことが当たり前になり、複雑なシステムやそれらの構成要素について理解したりシステム全体を構築したりすることができる IT エンジニアの役割は重要です。これらの需要に対応できる人材を目指して、専門的能力の向上を図ります。

▷ 養成する人材像

本コースでは、「IT エンジニア」を養成します。IT エンジニアとは、情報技術（IT）に関わる技術者の総称です。例えば、IT システムを企画したり、構築したり、運用したりする人です。システムを構築する（作る）だけでなく、よりよいシステムを企画し（考え）たり、運用（動か）したりすることも IT エンジニアの必要な役割です。また、最近の生成 AI の急激な進歩によって、企業活動でも AI の活用できる人材が求められてきています。より具体的には、IT の基礎を確実に身につけ、AI を適切に活用しつつ、プロジェクトチームにおいて経験者の指導の下でコミュニケーションをとりながら協調作業ができる職業人を目指します。

▷ 履修モデル科目の特徴

IT エンジニアの習得すべき知識・技能は多岐にわたります。4 年間という限られた期間で IT エンジニアを目指せるように、IT システムやネットワークシステムの初歩、プログラミング、システム開発などを学びます。

▷ 資格について

まずは基礎的な資格として IT パスポート試験があります。さらに、プログラミング分野では基本情報技術者試験、ネットワーク分野では、Cisco 認定 CCNA や CCNP などがあります。自分の判断で場当たりに挑戦するのではなく、きちんと IT パスポート試験から合格という成果を確実に積み上げていくことを期待しています。

▷ 履修モデル表

太字の科目はコース重点科目、それ以外はコース推薦科目

	前 期	単位数	後 期	単位数
1 年 次	情報学入門＊	2	情報ネットワーク入門	2
	基礎数学	2	情報数学Ⅰ	2
	プログラミング初歩Ⅰ＊	2	Web デザイン	2
	会計学＊	2	プログラミング初歩Ⅱ	2
	マーケティング論	2	計算機システム論	2
	コンピュータ実務演習Ⅰ	2	コンピュータ実務演習Ⅱ	2
	6+6=12 単位		10+2=12 単位	
2 年 次	情報処理技術演習Ⅰ＊	2	情報処理技術演習Ⅱ	2
	プログラミング実践Ⅰ	4	プログラミング実践Ⅱ	4
	スイッチング技術	2	ルーティング技術	2
	Web システム	2	Web プログラミングⅠ	2
	SNS 活用と問題解決	2	デジタルビジネス論	2
	アルゴリズムとデータ構造	2	オペレーティングシステム論	2
	データベース論	2	統計学	2
	ビジネスプログラミング	2		
	情報数学Ⅱ	2		
	マネージメント科学	2		
	統計学入門	2		
	16+8=24 単位		14+2=16 単位	
3・4 年 次	Web プログラミングⅡ	2	Web プログラミングⅢ	2
	情報セキュリティ＊	2	統計プログラミング	2
	インターネット技術	2	計測・制御論	2
	情報システムの開発と管理	2		
	ネットワークアプリケーション構築(通年)		4	
	特別実習・講義(情報)アプリ共同開発実践(通年)		4	
	16(通年科目含む)+0=16 単位		2+4=6 単位	

※ ＊ は必修科目

※ 重点科目 (64 単位) + 推薦科目 (22 単位) = 合計 (86 単位)



…データサイエンスコース…

《コーディネーター》 荒平高章（コース主任）、中島直樹、ディンダ・プラマント、宮崎武

▷ コースの概要

コンピュータの歴史は、ハードウェアの進化、ソフトウェアの充実を経て、今はデータの活用が中心となっています。企業はより良いサービスを提供するため、顧客の嗜好や行動に関するデータを収集し続けています。データは集めるだけでは意味がありません。それをどのように活用するかが重要になります。さらに近年は人工知能（AI）の台頭によって、高度な分析が可能となり、データ活用がより一層重要となってきています。「データサイエンス」とは、情報科学・統計学・アルゴリズムなどを駆使して、「社会にとって有益な知見」をデータから見出すための科学的なアプローチです。つまり、「社会を知ること」と「技術を得ること」が重要になります。

データサイエンスに求められるスキルは、大きく分けて①統計解析スキル②IT・AI スキル ③ビジネススキルの 3 種類です。①統計解析スキルは、数学知識・データ分析処理手法の知識・データ分析ソフトウェアの利用技術です。②IT・AI スキルは、IT および AI 知識全般・データベースの知識・プログラミングです。③ビジネススキルは、ビジネスに対する理解・論理的思考能力・文書作成能力・プレゼンテーション能力です。

▷ 養成する人材像

本コースでは、「データサイエンティスト」を養成します。データサイエンティストとは、データを分析しその分析結果を事業に活かす人です。多くの企業は、これまでに蓄積されたデータを企業経営に生かすことが重要だと感じています。具体的には、抱えている課題を解決したり仕事を効率化（AI による自動化）したり、顧客や組織に対する新たなサービスの提供など企業は様々なことを求めています。これらを実現するためにはデータサイエンティストの存在が不可欠です。企業の所有するデータを積極的に活用するために、多種多様な業種でデータサイエンティストの採用が増えています。

▷ 履修モデル科目の特徴

様々なデータを分析するための論理的な思考能力や統計解析スキル、データを処理するための幅広い IT 知識や AI に関する知識・技能、およびデータを活用して事業戦略の手法を導きだすためのビジネスに関する幅広い知識やプレゼンテーション能力を修得します。

▷ 資格について

データサイエンスのスキルに対応する資格は下記のとおりです。

①統計解析スキルは統計検定、②IT スキルと③ビジネススキルは IT パスポート、生成 AI パスポートなど多岐にわたります。また、本学における KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）を修得可能で、就職活動にも活用できます。

▷ 履修モデル表

太字の科目はコース重点科目、それ以外はコース推薦科目

	前 期	単位数	後 期	単位数
1 年 次	情報学入門＊	2	情報数学Ⅰ	2
	基礎数学	2	プログラミング初歩Ⅱ	2
	プログラミング初歩Ⅰ＊	2	消費者行動論	2
	マーケティング論	2	コンピュータ実務演習Ⅱ	2
	コンピュータ実務演習Ⅰ	2	情報リテラシー演習Ⅱ＊	2
	会計学＊	2	Web デザイン	2
	経済学	2	情報ネットワーク入門	2
	10+4=14 単位		10+4=14 単位	
2 年 次	データベース論	2	統計学	2
	プログラミング実践Ⅰ	4	プログラミング実践Ⅱ	4
	アルゴリズムとデータ構造	2	デジタルビジネス論	2
	統計学入門	2	情報処理技術演習Ⅱ	2
	情報数学Ⅱ	2		
	情報処理技術演習Ⅰ＊	2		
	ビジネスプログラミング	2		
	経営分析	2		
	12+6=18 単位		6+4=10 単位	
3・4 年 次	情報セキュリティ＊	2	データモデリング	2
	多変量解析	2	統計プログラミング	2
	データ解析	2	人工知能	2
	機械学習	2	AI・データサイエンス応用実践	2
	8+0=8 単位		8+0=8 単位	

※ ＊ は必修科目

※ 重点科目（54 単位）＋推薦科目（18 単位）＝合計（72 単位）



Kyushu Institute of Information Sciences

九州情報大学

未来が求める自分になれる